



福岡県公立高校入試【社会・歴史大問 1】完全攻略プリント⑥

～15 年間（2012～2026 年）の出題データから導く「歴史重要事項 双方向・因果往復演習ドリル」～

【本教材のガイダンスと到達目標】

対象者： 福岡県公立高校入試を受験する中学 3 年生（および指導者・保護者）

特に向いている生徒：

- ・ 一問一答の用語暗記は得意だが、理由や影響を説明する記述問題になると手が止まる生徒
- ・ グラフや史料文が提示された際、「何が起きているか」は読めても、背後にある制度や政策と結びつけられない生徒
- ・ 「参勤交代」「地租改正」などの用語を知っているだけで、その制度が社会や財政に与えた影響を説明できない生徒
- ・ 歴史の知識を「原因から結果」「結果から原因」の両方向から整理できていない生徒

このプリントでできるようになること：

1. 重要制度・政策の名称から、それが社会や人々に及ぼした「内容・影響・負担」を正確に説明できるようになる（順方向の思考力）。
2. グラフの数値や史料文に示された「具体的事実・結果」から、背景にある「制度・政策・歴史用語」を逆算して特定できるようになる（逆方向の読解力）。
3. 知識を単体で覚えるのではなく、原因と結果を結ぶ矢印で捉え、問いの向きに左右されず即座に出力できるようになる。
4. 記述問題の指定語句を適切に配置し、因果関係（～のため、～となった）が明確な答案を作成できるようになる。

推奨する使い方：

Step 1（理論の整理）： 第 1 章・第 2 章を読み、2015 年間 4 と 2022 年間 3 の比較を通じて「順方向」と「逆方向」の思考モデルを理解する。

Step 2（自力演習）： 第 3 章の実戦定着ドリル（全 12 問）を、解説を見ずに解く（目安時間：25～30 分）。

Step 3（因果確認）： 偶数番号の逆方向問題を解く際は、資料中の「どの文言・数値」が用語特定の決定打になったかを意識する。

Step 4（誤答分析）： 答え合わせの際、各問の「誤答原因チェック欄」を使い、ミスの原因が「知識不足」なのか「因果の方向の混同」なのかを言語化する。

Step 5（過去問演習）： 第 6 章の「過去問演習 組み合わせ優先度表」に従い、実際の入試過去問で双方向の思考を定着させる。

【冒頭 1 分要約：15 年分析が導いた結論】

【結論】歴史の重要事項は、「用語→内容・結果」と「資料・結果→用語」の両方向を往復できる形で整理しておくことが、実戦での得点力につながる。

2012～2026 年度の 15 年間の出題データを分析すると、歴史大問 1 の因果関係問題には以下の特徴が確認できる。

1. 同一事象の異なる方向からの出題：2015 年問 4 では「参勤交代が大名に重い負担となった理由」を記述させ、2022 年問 3 では「藩の支出割合グラフから参勤交代を特定」させるなど、同じ因果関係を逆向きに問う例が確認できる。
2. 一方向暗記の限界：「用語名→説明」の一方向しか練習していないと、資料に現れた「結果の実態」から制度や政策を逆算する問題に対応しにくくなる。
3. 双方向整理の有効性：重要事項を「制度・政策・用語」⇔「内容・結果・影響」の双方向で整理しておくことで、記述問題と資料読解問題の双方に安定して対応できるようになる。

★用語を覚えたら、必ず逆を問え。「その制度の結果、何が生じたか」「この資料の状況を招いた制度は何か」を往復せよ。

第 1 章：15 年間の出題データと「双方向理解」の重要性

1. 2015 年問 4 と 2022 年問 3 の対比（確認された客観的事実）

福岡県入試の歴史大問 1 において、「参勤交代」をめぐる出題は、思考のベクトル（向き）が正反対の 2 つの形式で出題されている。

- **2015 年度 問 4** [順方向：制度 → 影響]：

年表中の「参勤交代」を受け、それが各大名にとって重い負担となった理由を、「領地と江戸」「出費」の語句を使って記述させた。

- **2022 年度 問 3** [逆方向：資料 → 制度]：

江戸時代の藩の年間総支出の内訳（江戸関係の費用や旅費が多額を占める円グラフ）を提示し、その要因となった幕府の制度名（参勤交代）を特定させた。

2. 思考の 2 つのベクトル

- **【順方向】制度・政策・歴史用語 → 内容・結果・影響：**

制度や用語を出発点とし、その具体的な内容や、それが社会・人々にどのような変化や負担をもたらしたかを説明する（主に理由説明記述）。

- **【逆方向】結果・資料・具体的事実 → 制度・政策・原因：**

資料の数値、史料文の文言、社会的な状況を出発点とし、その背景にある制度・政策や原因を逆算して特定する（主に資料読解・用語特定）。